

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 特 許 公 報 (B2)

(11) 特許番号

特許第4696408号
(P4696408)

(45) 発行日 平成23年6月8日 (2011.6.8)

(24) 登録日 平成23年3月11日 (2011.3.11)

(51) Int. Cl.

F 1

B 6 5 D 5/02 (2006.01)

B 6 5 D 5/02 B

B 6 5 D 5/44 (2006.01)

B 6 5 D 5/44 A

B 6 5 D 5/40 (2006.01)

B 6 5 D 5/44 W

B 6 5 D 5/40 A

請求項の数 5 (全 11 頁)

(21) 出願番号 特願2001-196931 (P2001-196931)
 (22) 出願日 平成13年6月28日 (2001.6.28)
 (65) 公開番号 特開2003-11948 (P2003-11948A)
 (43) 公開日 平成15年1月15日 (2003.1.15)
 審査請求日 平成20年5月22日 (2008.5.22)

(73) 特許権者 000003193
 凸版印刷株式会社
 東京都台東区台東1丁目5番1号
 (74) 代理人 100074273
 弁理士 藤本 英夫
 (72) 発明者 中村 幸広
 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印
 刷株式会社内
 (72) 発明者 木澤 慶三
 兵庫県西宮市今津出在家町4番9号 大関
 株式会社内

審査官 石田 宏之

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 切妻屋根型紙容器の付属紙箱

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

正面板、右側面板、後面板、左側面板および糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれかに収容物を保持する保持板が連設されているとともに、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、また、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止されていることを特徴とする切妻屋根型紙容器の付属紙箱。

【請求項2】

正面板、右側面板、後面板、左側面板および糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれか一方の下端には収容物を保持する保持板が、また他方には押え板がそれぞれ連設されているとともに、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止され、また、押え板は保持板の傾斜板部と水平板部との境にまで伸びる傾斜板部が備わり、その遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部

10

20

分に係止されていることを特徴とする切妻屋根型紙容器の付属紙箱。

【請求項 3】

正面板、右側面板、後面板、左側面板および糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれか一方の下端には収容物を保持する保持板が、また他方には押え板がそれぞれ連設されていて、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、また、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止され、また、押え板は正面板あるいは後面板の上下寸法 10
の間部分までほぼ真っ直ぐに立ち上がる鉛直板部と、この鉛直板部に引き続いて、保持板の傾斜板部と水平板部との境にまで伸びる傾斜板部が備わり、その遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部分に係止されていることを特徴とする切妻屋根型紙容器の付属紙箱。

【請求項 4】

左右側板は、その下端に切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の内側に係止できる係止片が備わっている請求項 1～請求項 3 のいずれかに記載の切妻屋根型紙容器の付属紙箱。

【請求項 5】

保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の上端に形成されているトップシール部に沿って上方に伸びる垂直板部が備わり、この垂直板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられている請求項 1～請求項 3 のいずれかに記載の切妻屋根型紙容器の付属紙箱。 20

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】

この発明は、牛乳、ジュース、日本酒やワインなどの酒類、サラダ油などの液体を充填した切妻屋根型（ゲブルトップ型）紙容器の上部に係止させた、おまけやおつまみや付属の小物などを収容する付属紙箱に関する。

【0002】

【従来の技術】

最近の販売、流通市場の競争激化に伴って、おまけ品やおつまみや付属の小物など（以下この発明では収容物と総称する）を販売商品の景品として添付する傾向が高まってきている。そして、ジュースや酒類及び油脂類などを充填した切妻屋根型紙容器においても、例えば実開昭 55-69031 号公報に示されるように、切妻屋根型紙容器に底部を繫止できるように、底部に、傾斜屋根に合わせた山形のフラップを設けた付属紙箱が提案されている。 30

【0003】

また、上記以外にも、例えば実公昭 59-43215 号公報に示されるように、切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の片側だけに底部に係止できる構成も提案されている。具体的には、左右の側面から、この切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の裏面形状に相応した三角形状部を備えた舌片を設ける。そして、この舌片を、傾斜屋根の左右からこれを抱え込むようにして、この傾斜屋根の裏面の窪みに折り込み、もって付属紙箱を切妻屋根型紙容器に取り付けるようにしたものである。 40

【0004】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前記の実開昭 55-69031 号公報に示される付属紙箱は、山形のフラップがどこも固定されていない。したがって、この付属紙箱を切妻屋根型紙容器のトップシール部に挿入した際に、きっちりと係止されず外れてしまうという問題点があった。また、付属紙箱の蓋板は、単に差し込み片を左右側板のフラップ前縁と正面板の背面の間に 50

差し込むだけで、係止構造を全く備えていない。したがって、この蓋板が不用意に開いてしまうおそれがあり、付属紙箱内の収容物が不用意にこぼれおちるおそれがあった。

【0005】

また、前記の実公昭59-43215号公報に示される付属紙箱は、付属紙箱そのものは糊付けされて、むしろ開放されにくい問題点はあるが、収容物が不用意にこぼれ落ちるおそれはない。しかし、このものは切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の片側だけに底部に係止できるように構成されているので、係止状態が恒常的に安定しない。その結果、切妻屋根型紙容器と付属紙箱とを最終的に、シュリンクフィルムをかけて包装する段階でも、付属紙箱が容易に外れてしまい、作業性能が大幅に低下する欠点があった。

【0006】

これらの現状を踏まえて本発明者等は、前記実公昭59-43215号公報に示される切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の片側のみに係止される付属紙箱と異なって、実開昭55-69031号公報に示されるように、基本的には、両方の傾斜屋根に跨って係止される形式の付属紙箱を採用して、種々検討を加えた。その結果、収容物の保持機能は、山形のフラップを側板にしっかりと係止することが必須の要件であることがわかった。また、付属紙箱を切妻屋根型紙容器の傾斜屋根に係止するにあたっては、付属紙箱の性質上、あまり強固な係止は好ましくなく、といって簡単に外れるのも好ましくないことがわかった。これらの諸条件を勘案して、更に検討を重ねた結果、収容物の保持機能をうまく維持でき、併せて傾斜屋根への係止にあたっては簡便な手段でありながらも、望ましい保持機能が得られる手段を開発するに至ったので、ここに提案する。

【0007】

したがって、この発明の第1の目的は、収容物の保持機能を格段に向上できる付属紙箱を提供することである。また、第2の目的は、収容物の保持機能を更に向上できる付属紙箱を提供することである。そして第3の目的は、切妻屋根型紙容器に対する望ましい保持機能を持ちながらも取り外しも容易な付属紙箱を提供することである。

【0008】

【課題を解決するための手段】

以上の技術的な課題を解決するために、まず第1の発明では、正面板、右側面板、後面板、左側面板および糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれかに収容物を保持する保持板が連設されているとともに、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、また、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止されるようにして構成されたものである。

【0009】

また、第2の発明では、正面板、右側面板、後面板、左側面板および糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれか一方の下端には収容物を保持する保持板が、また他方には押え板がそれぞれ連設されているとともに、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止され、また、押え板は保持板の傾斜板部と水平板部との境にまで伸びる傾斜板部が備わり、その遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部分に係止されるように構成されたものである。

【0010】

更に、第3発明では、正面板、右側面板、後面板、左側面板及び糊代よりなる角筒体の左右側面板の上端にはフラップが設けられ、後面板の上端には蓋板を介して差し込み片が連

10

20

30

40

50

設されてなる切妻屋根型紙容器の付属紙箱において、正面板あるいは後面板のいずれか一方の下端には収容物を保持する保持板が、また他方には押え板がそれぞれ連設されていて、この保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられ、この水平板部の左右両側縁が左右側面板に、また、遊端縁が蓋板にそれぞれ着脱自在に係止され、また、押え板は正面板あるいは後面板の上下寸法の間部分までほぼ真っ直ぐに立ち上がる鉛直板部と、この鉛直板部に引き続いて、保持板の傾斜板部と水平板部との境にまで伸びる傾斜板部が備わり、その遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部分に係止されるように構成されたものである。

10

【0011】

そして、第4の発明では、左右側板は、その下端に切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の内側に係止できる係止片が備わっているよう構成されたものである。

【0012】

更に、第5の発明では、保持板は、切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う傾斜姿勢が保たれる寸法を備えた傾斜板部と、この傾斜板部に引き続いて、切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の上端に形成されているトップシール部に沿って上方に伸びる垂直板部が備わり、この垂直板部に引き続いて、蓋板の内面に沿って後面板あるいは正面板の上端に至る水平板部が設けられたものである。

20

【0013】**【作用】**

上記のように、この発明によれば、傾斜板部を切妻屋根型紙容器の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿わせ、また、この傾斜板部に連なる水平板部を蓋板の内面に沿わせるようにして保持板を筒体内に折り込み、この水平板部の左右両側縁を左右側面板に、そして、遊端縁を蓋板にそれぞれ係止することによって、蓋板とこの保持板の傾斜板部との間に、容易には解れない収納空間の備わった付属紙箱が得られる。

【0014】

また、第2の発明では、保持板に加えて、遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部分に係止された押え板が設けられているので、この押え板が保持板の折り込み姿勢を保持する。その結果、この保持板の崩れを未然にうまく防止できる付属紙箱が得られる。

30

【0015】

更に、第3の発明では、保持板に加えて、遊端が保持板の傾斜板部と水平板部との境部分に係止された押え板が設けられ、更にこの押え板が正面板あるいは後面板の上下寸法の間部分まで、ほぼ真っ直ぐに立ち上がる鉛直板部を備えているので、この押え板の鉛直板部に続く傾斜板部の下方にはデッドスペースが形成されて、口栓を備えた切妻屋根型紙容器には好適である付属紙箱が得られる。

【0016】

そして、第4の発明では、左右側板の下端に切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の内側に係止できる係止片が備わっているので、この係止片を傾斜屋根の内側に係止させることによって、この係止片の折り込みに対する弾性反発力を有効に活用でき、切妻屋根型紙容器への取り付け並びに取り外しが簡易となる付属紙箱が得られる。

40

【0017】

第5の発明では、保持板の垂直板部が、切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の上端に備わるトップシール部に沿って存在することで、この垂直板部をこのトップシール部に接当させるようにして、このトップシール部をガイド部材として、また、垂直板部を被ガイド部材として有効に活用させることができる。

【0018】**【発明の実施の形態】**

以下、この発明の実施の形態を、図面を参照しながら説明する。

図1～図4はこの発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱を示し、図1は、使用状態を示

50

す斜視説明図、図 2 はそのブランクの展開図、図 3 は組み立て状態を下方から見た斜視図、図 4 は組み立て状態の断面図である。

【0019】

この付属紙箱は、図 2 に示されるように、まず、糊代 1、正面板 2、右側面板 3、後面板 4、左側面板 5 が折り曲げ線を介して連設して設けられている。右側面板 3 及び左側面板 5 の上端にはそれぞれ折り曲げ線を介してフラップ 6 が、また、下端には折れ曲げ線を介してそれぞれ、逆三角形形状に形成された係止片 7 が連設されている。更に、後面板 4 の下端には折り曲げ線を介して保持板 8 が連設されている。また、この保持板 8 は、長さ方向の中間部分の折り曲げ線を介して、基端側（後面板との連設側）の傾斜板部 8 1 と、遊端側（突設側）の水平板部 8 2 とで構成されている。そして、この後面板の上端には、折り曲げ線を介して蓋板 9 と差し込み片 10 が設けられている。正面板 2 の下端には折り曲げ線を介して押え板 11 が連設されている。

10

【0020】

前記保持板 8 の傾斜板部 8 1 は、切妻屋根型紙容器 P の片側の傾斜屋根の傾斜面に全面的に沿う、傾斜姿勢が保たれる長さを備えるように寸法設定されている。そしてこの傾斜板部 8 1 に引き続いて、折り曲げ線を介して設けられた水平板部 8 2 は、蓋板 9 の内面に沿って後面板 4 の上端縁に至るに足る長さに寸法設定されている。また、図例では、傾斜板部 8 1 と水平板部 8 2 の連設部分には、切妻屋根型紙容器 P の傾斜屋根上端にあるトップシール部 A（図 4）の上下寸法とほぼ同等の寸法を備えた鉛直板部 8 3 が形成されている。これによって、保持板 8 は、切妻屋根型紙容器 P の傾斜屋根とその上端にあるトップシール部 A に、正に全面的に、沿った組み立て姿勢となる。

20

【0021】

そして、水平板部 8 2 の左右両側縁と下縁にはそれぞれ突起 12 が突設されている。一方、左右側面板 3、5 のそれぞれのフラップ 6 との境界部、また、蓋板 9 と差し込み片 10 との境界部には、それぞれ前記突起 12 が係合する切り込み 13 が設けられている。なお、図例では、左右側面板 3、5 のそれぞれのフラップ 6 との境界部に設けられる切り込み 13 は、切欠き穴で形成されている。また、正面板 2 の上端にも、この突起 12 が係合できるように切り込み 13 が設けられている。

【0022】

押え板 11 は、長さ方向の中間部分の折り曲げ線を介して、基端側（正面板との連設側）の鉛直板部 11 1 と、遊端側（突設側）の傾斜板部 11 2 とで構成されている。そして、この鉛直板部 11 1 の上下寸法は、正面板 2 の上下寸法のほぼ二分の一に設定されている。また、この垂直板部 11 1 は、正面板 2 の内側に折り込まれて、この正面板 2 の背面に沿って鉛直姿勢に立ち上げられるものである。また、傾斜板部 11 2 は、鉛直姿勢に立ち上げられた鉛直板部 11 1 の上端から保持板 8 の水平板部 8 2 と鉛直板部 8 3 の境界部に至る寸法よりもやや長い寸法に設定されている。

30

【0023】

その理由は以下のとおりである。つまり、組み立てたとき、この傾斜板部 11 2 は、鉛直姿勢に立ち上げられた鉛直板部 11 1 の上端から保持板 8 の水平板部 8 2 と鉛直板部 8 3 の境界部にわたって、傾斜姿勢となって掛け渡される。しかし、この傾斜板部 11 2 がやや長めに形成されることによって、上方にやや弧状に反りあがるような姿勢で掛け渡されことになる（図 1、3、4）。その結果、傾斜板部 11 2 に弾性復元力が生じることとなり、この弾性復元力による押圧力が保持板 8 に働き、突起 12 と切り込み 13 の係合を強固に保持することになるからである。つまりは、保持板 8 の組み立て姿勢を強固に維持することになるのである。

40

【0024】

また、押え板 11 の下端に突起 14 が設けられ、一方、保持板 8 の鉛直板部 8 3 と水平板部 8 2 の境界部には、この突起 14 が係合する切り込み 15 が設けられている。

【0025】

この発明における上記ブランクの組み立て方は、まず糊代 1 と左側面板 5 の裏面を、接着

50

剤を用いて接着し、その後各面板を起こし、角筒状とする。

【0026】

次に、後面板4の下端に設けられた保持板8の傾斜板部81、垂直板部83、水平板部82をそれぞれ内側に折り込む。次いで、左・右側面板3, 5と各フラップ6との境界部の切り込み13に、水平板部82の左右両側の突起12に係合させて、収容物の収納部空間16を形成する。

【0027】

次に、押え板11の鉛直板部111と傾斜板部112をそれぞれ内側に折り込み、保持板8の水平板部82と鉛直板部83との境界部の切り込み15に、この押え板11の下端の突起14に係合する。

10

【0028】

そして、収容物を上部開口から保持板8で形成された収納空間16に収納し、左・右側面板3, 5のフラップ6をそれぞれ内側に折り込む。次いで、蓋板9及び差し込み片10を内側に折り込み、差し込み片10を上部開口に差し込んで、この上部開口を閉塞する。同時に、蓋板9と差し込み片10との境界部の切り込み13に保持板8の水平板部82の下端に設けた突起12に係合させる。

【0029】

このようにして組み立てられた切妻屋根型紙容器の付属紙箱を、図1に示されるように、切妻屋根型紙容器Pの上部に、左・右側面板3, 5の下端に設けられた係止片7を、それぞれ内側に折り込んだ状態で被せる。その結果、係止片7と切妻屋根型紙容器Pの傾斜屋根の内側との係合が簡便に行え、併せて望ましい係合状態が維持される。また、取り外しも簡便に行うことができる。

20

【0030】

また、保持板8の水平板部82は、切り込み13に突起12に係合されて、その組み立て姿勢が強固に保たれるので、保持板8の組み立て姿勢が容易に崩されたり変形するおそれなくなる。その結果、この保持板8による収納物の保持機能が向上する。併せて、押え板11がこの保持板8の水平板部82と鉛直板部83の境界部を、弾性復元力をもって押圧し続けるので、保持板8の組み立て姿勢が一層強固に維持される。したがって、この保持板8による収納物の保持機能が更に一層向上する。

【0031】

30

更に、押え板11は、鉛直板部111によって、図4に示されるように、角筒状の内部空間にあって、その下部開口よりもやや上方に持ち上げられた位置に存在することとなる。その結果、この押え板11の下部にはデットスペース17が形成される。このことは、特に傾斜屋根に口栓が設けられたタイプの切妻屋根型紙容器Pには好適に採用され、汎用性が格段に向上し、従来の構造に比べて格段に有利となる。つまり、実公昭57-18278号公報に提示された構造のように、この押え板11の傾斜板部111と傾斜屋根とが密着する構成では、この傾斜板部111に口栓が当たらないように、ここに挿入穴を設ける必要性が生じる。これは、構造上、加工上もやや躊躇するところであり、また、組み付け作業も、口栓と挿入穴との位置合わせをするなど煩雑となる。しかし、本発明に係る上記の構成では、かかる必要性を全く要しない点で有利となるからである。

40

【0032】

なお、以上の実施の形態にあっては、保持板8には鉛直板部83が備わった構成が採用されている。

この鉛直板部83は、切妻屋根型紙容器Pの傾斜屋根の上端に備わっているトップシール部Aにガイドされて、この傾斜屋根に付属容器を被せる作業が格段に軽快に行われたり、付属容器を所期どおりの正しい姿勢で係止できて、見栄えが向上するために採用されている。

したがって、本来的には、傾斜板部81と水平板部82だけを採用しても、この発明の所期の目的は十分に達成される。しかし、できればこの鉛直板部83は、必要に応じて採用されるのが望ましい。また、傾斜板部81は、図5に示されるように、切妻屋根型紙容器

50

Pの傾斜屋根の上端に備わっているトップシール部Aの上端にまで直線的に伸びる板部として形成される構成も採用できる。

【0033】

また、上記の実施の形態では、押え板11が採用されている。

この押え板11は、上述したとおり、保持板8の組み立て姿勢を一層強固にして、その保持機能の一層の向上を図る目的で採用されている。

したがって、本来的には、保持板8のみを採用するだけで、この発明の所期の目的は十分に達成されるので、理想的には押え板11を採用することが望ましいが、これも必用に応じて採用されれば良い。

【0034】

また、上記の実施の形態では、押え板11の傾斜板部112は、鉛直姿勢に立ち上げられた鉛直板部111の上端から保持板8の水平板部82と鉛直板部83の境界部に至る寸法よりもやや長く寸法設定されている。

しかし、この構成も保持板の保持機能の一層の向上を図る目的で採用されているので、この傾斜板部112の寸法は、必用に応じて、図6に示されるように、鉛直姿勢に立ち上げられた鉛直板部111の上端から保持板8の水平板部82と鉛直板部83の境界部に至る寸法とほぼ等寸法に設定された構成を採用できる。つまり、図1や図3に示される上方に円弧となるような組み立て姿勢にはならず、直線の組み立て姿勢になるが、保持板8の組み立て姿勢を強固に維持できる点において、同等の効果を発揮することはいうまでもない。

【0035】

更に、この押え板11の傾斜板部112は、図7に示されるように、正面板2の下端から、鉛直板部111を介することなく、直に連設される構成を採用できる。この場合は、付属紙箱の構造がより簡素になるので、好ましい。ただし、この場合には、口栓を備えた切妻屋根型紙容器Pへの適用は難しくなるので、切妻屋根型紙容器Pのタイプによって、適宜に使い分ける必要がある。

【0036】

また、この押え板11の傾斜板部112の下部側に、図8に示されるように、保持板8と同様の鉛直板部113を設けた構成を採用できる。保持板8の鉛直板部83とこの押え板11の鉛直板部113によって、切妻屋根型紙容器Pの傾斜屋根の上端に備わっているトップシール部Aを両側から挟持する形で、付属容器を被せることができるので、取り付け姿勢の格段の安定が得られ、見栄え上も好ましく、商品価値を高めることができる。また、口栓を備えない切妻屋根型紙容器である場合には、図中想像線で示されるように、鉛直板部111を介することなく、正面板2の下端に直に傾斜板部112を設け、この傾斜板部112の下端に前記鉛直板部113を設けた構成を採用できる。

【0037】

以上に示した各変形例は、互いに組み合わせられて更に別の変形例が構成されることを阻害するものではなく、この発明の所期の目的を逸脱しない範囲内において、相互に自由に組み合わせることができる。

【0038】

【発明の効果】

以上のようにこの第1の発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱は、次の効果を奏する。付属紙箱の四周を形成する板に設けられた切り込みに、収納物を収納するための空間を形成する保持板の突起に係合してその組み付け姿勢が維持されている。

したがって、付属紙箱を、簡単な構成で、しかも簡単に組み立てることができながら、保持板による収納物の保持機能を格段に向上できる。特に、この保持板は、水平板部が備わっていて、その折り込み姿勢が保持されているので、この保持板の崩れを未然にうまく防止でき、保持板による収納物の保持機能を所期どおりに発揮できる。

【0039】

更に、作業面においても、糊代を接着した平板状態で輸送や保管が可能で、スペースをと

10

20

30

40

50

ることがない。

【0040】

また、第2の発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱は、上記第1の発明によって奏される効果に加えて、次の効果を奏する。

保持板は押え板によって折り込み姿勢が保持されているので、この保持板の崩れを未然にうまく防止でき、保持板による収納物の保持機能が一層望ましい形で実現できる。

【0041】

また、第3の発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱は、上記第1並びに第2の発明によって奏される効果に加えて、次の効果を奏する。

押え板が鉛直板部を備えているので、この押え板の下方にはデッドスペースが形成されて、口栓を備えた切妻屋根型紙容器にも好適に適用され、その汎用性が格段に高まり、使い勝手の良い付属容器を提供できる。併せて、冒頭に記した従来の構造に比べて、構造上、加工上、組み立て作業上も格段に有利となる。

【0042】

そして、第4の発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱は、上記第1～第3の発明によって奏される効果に加えて、次の効果を奏する。

左右側板の下端に切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の内側に係止する係止片が備わっているので、切妻屋根型紙容器から外れ落ちるおそれがなく、切妻屋根型紙容器と付属紙箱は常に一体になって、安定したセット姿勢が保たれる。したがって、出荷前の包装段階や店頭などで付属紙箱を切妻屋根型紙容器に被せなおす手間もいらず、能率の良い梱包作業や販売活動を可能にする。併せて、傾斜屋根の内側との係合が簡便に行え、望ましい係合状態が維持される。また、取り外しも簡便に行うことができる。

【0043】

更に、第5の発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱は、上記第1～第3の発明によって奏される効果に加えて、次の効果を奏する。

保持板の垂直板部が、切妻屋根型紙容器の傾斜屋根の上端に備わるトップシール部にガイドされるので、付属容器を切妻屋根型紙容器の傾斜屋根上に被せる作業が格段に軽快となる上に、付属容器を所期どおりの正しい姿勢で係止でき、見栄えを格段に良くすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の実施の形態を示し、使用状態を示す斜視説明図である。

【図2】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の実施の形態を示し、付属紙箱のブラנקの展開図である。

【図3】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の実施の形態を示し、組み立て状態を下から見た斜視図である。

【図4】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の実施の形態を示し、組み立て状態の断面図である。

【図5】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の別の実施の形態を示し、組み立て状態の説明断面図である。

【図6】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の別の実施の形態を示し、組み立て状態の説明断面図である。

【図7】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の別の実施の形態を示し、組み立て状態の説明断面図である。

【図8】本発明に係る切妻屋根型紙容器の付属紙箱の別の実施の形態を示し、組み立て状態の説明断面図である。

【符号の説明】

1…糊代、2…正面板、3…右側面板、4…後面板、5…左側面板、6フラップ、8…保持板、81…傾斜板、82…水平板部、9…蓋板、10…差し込み片11…押え板、111…鉛直板部、112…傾斜板部、12…突起、13…切り込み、14…突起、15…切

10

20

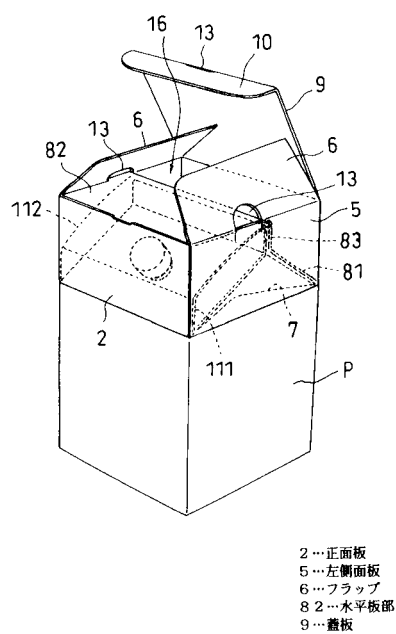
30

40

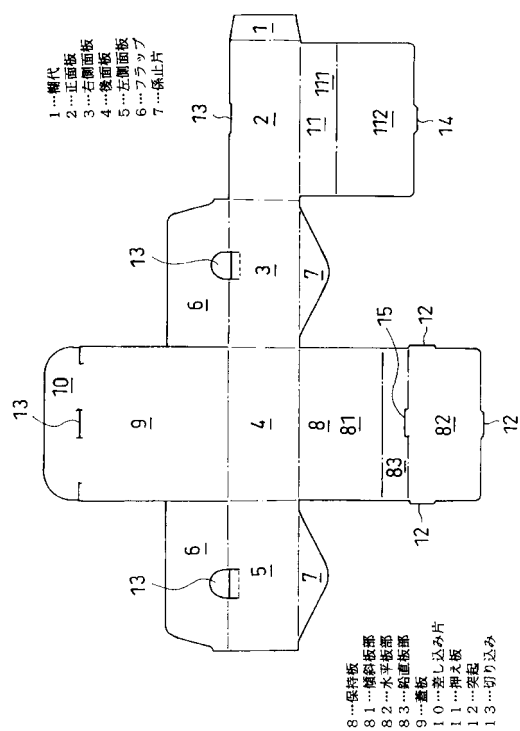
50

り込み、16…収納空間、17…デッドスペース、A…トップシール部、P…切妻屋根型紙容器。

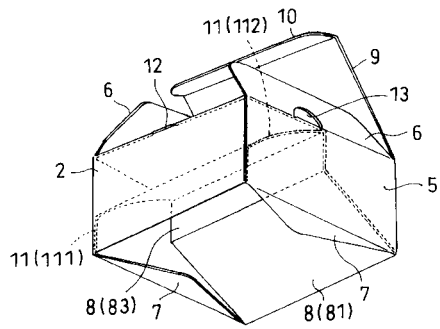
【図 1】



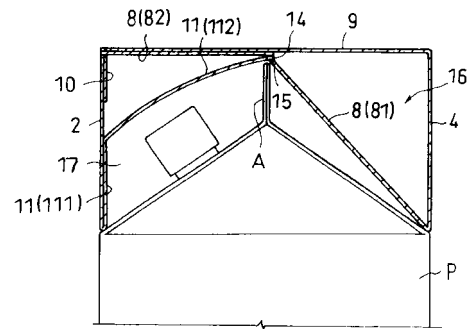
【図 2】



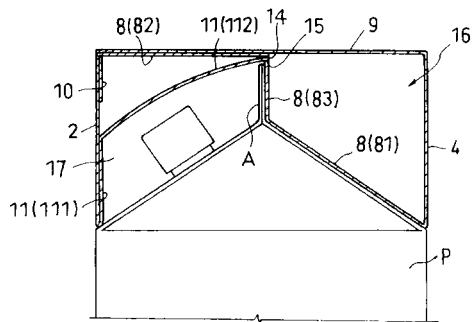
【図 3】



【図 5】



【図 4】



フロントページの続き

- (56)参考文献 特開平07-315360 (JP, A)
実開平07-019121 (JP, U)
特開平08-011866 (JP, A)
実開平06-072825 (JP, U)
登録実用新案第3034148 (JP, U)
実開平07-021523 (JP, U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

B65D 5/02

B65D 5/44

B65D 5/40